

データ駆動型花き類効率計画生産技術実証グループ（トルコギキョウ）

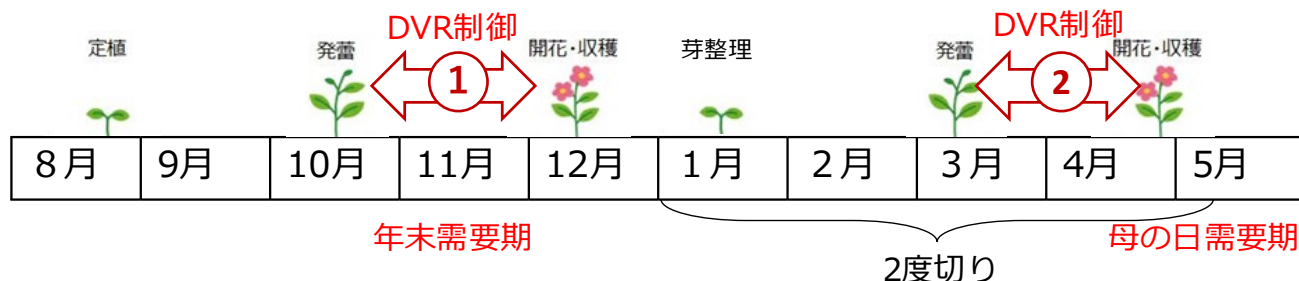
花き全国技術実証2023協議会【担当機関：静岡県農林技術研究所、農研機構（協力機関：地域生産者）】

背景とねらい

トルコギキョウは、開花時期の年次変動が大きく、立枯性病害による出荷ロスが多い。そのため、国産品の出荷が不安定であり、需要期にマッチした計画出荷体制が整っていない。これまで立枯性病害対策として土壌pHの矯正と土壌消毒を組合せた被害軽減技術の確立により2度切り栽培が可能となった。そこで、飛躍的な収量増加を目的に、年内および5月需要期にマッチした2度切り栽培における計画出荷技術を実証する。

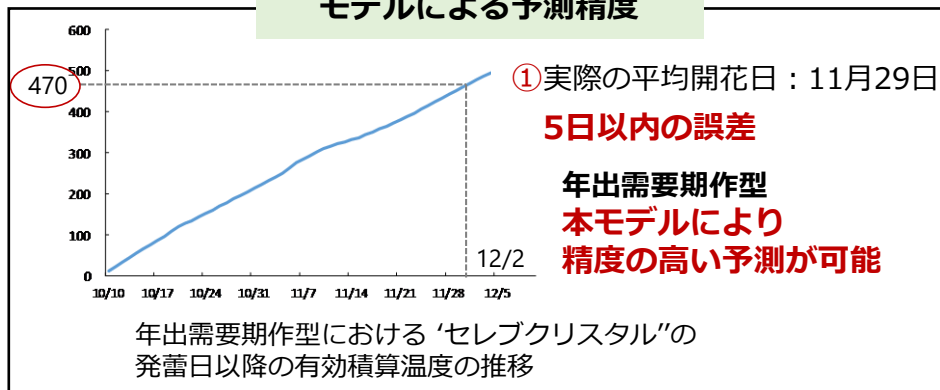
実証技術の概要

トルコギキョウ2度切り栽培における計画安定生産技術の現地実証



トルコギキョウ2度切り栽培における計画安定生産実証の計画図

モデルによる予測精度



制御上の課題

目標	有効積算温度
収穫日	達成日
12月10日	12月2日
年内出荷作型の計画生産には、ヒートポンプ等による冷房が必要	

実証技術の経済性

達観による半数発蕾日を起点として有効積算温度を達成した日の前側1週間以内に、出荷ピークがあることが明らかになった。このことから、予測される平均収穫日を基に市場への情報や出荷計画を立てて有利販売につなげる可能性が示された（図1、2）。

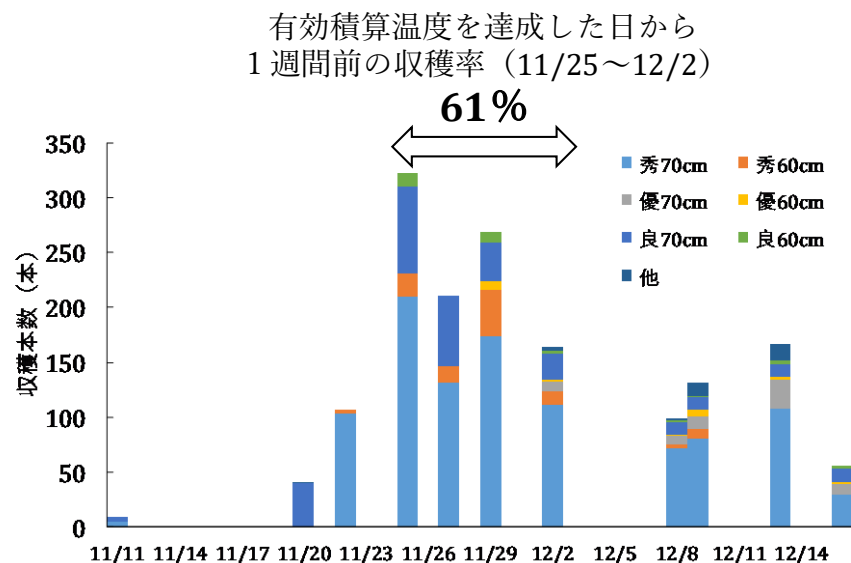


図1 DVR制御(制御システム; AMTeC)による
年末需要期における収穫本数の推移（全体区）



図2 トルコギキョウの生育状況
（2023年11月6日現在）

期待される効果

土壌pHの矯正と土壌消毒を組合せた立枯性病害対策の導入により在圃期間が長い2度切り栽培においても枯死株の発生は無く、発蕾期以降に有効積算温度と基底温度をもとにした温度管理により、12月と5月の需要期に出荷可能となることから大幅な収益の向上効果が期待できる。